



JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

LONDON

LOS ANGELES

JAPAN HOUSE 実施報告書

2025年4月—2026年3月

JAPAN HOUSE 実施報告書
2025年4月—2026年3月

日本を知る衝撃を、世界へ	02
基本方針と5つの機能	04
来館者数	06
メディア掲載実績	07
巡回企画展	08
現地企画展	10
各拠点の活動	
SÃO PAULO	12
LONDON	20
LOS ANGELES	30

日本を知る衝撃を、世界へ。

日本の多様な魅力や様々な政策・取組を発信する施設として2017年から2018年にかけて設置されたジャパン・ハウスは、開館時からの累計来館者数が3拠点合計で864.3万人（2026年2月28日時点）を超えており、着実にその存在感を拡大してきました。

3つの拠点は、展示ギャラリー、多目的ホール、ライブラリー、レストラン、ショップの5つの機能を持ち、来館者が多面的に日本を感じることができるように設計されています。展示ギャラリーでは様々な分野のクリエイターと連携して展覧会を開催し、また、多目的ホールでは企業や各種団体のみならず政府機関や自治体等と協力して多様なイベントを実施しています。ジャパン・ハウスではその強い訴求力を生かして、講演やセミナーの形式で日本の政策・取組についても積極的に発信しており、企画と連動した発信も実施しています。各分野で活躍する方々にご登壇いただくことにより、対日理解を促進する重要な機会を提供しています。

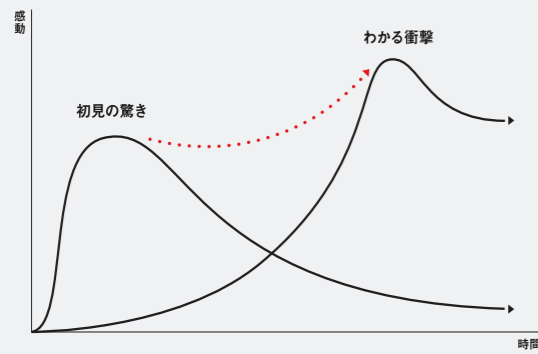


JAPAN HOUSE SÃO PAULO	設立年月 運営 館長 所在地	2017年4月 株式会社JTB カルロス・アウグスト・ホーザ Av. Paulista, 52 - Bela Vista, São Paulo - SP, 01310-900, BRASIL
JAPAN HOUSE LONDON	設立年月 運営 館長 所在地	2018年6月 Japan H.L.Limited サム・ソーン 101-111 Kensington High Street, Kensington, London W8 5SA, UK
JAPAN HOUSE LOS ANGELES	設立年月 運営 館長 所在地	2017年12月(一部開館)、2018年8月(全館開館) 吉本興業株式会社 海部優子 Ovation Hollywood 6801 Hollywood Blvd. Level 2 and 5 Los Angeles, CA 90028, USA

JAPAN HOUSE

基本方針と5つの機能

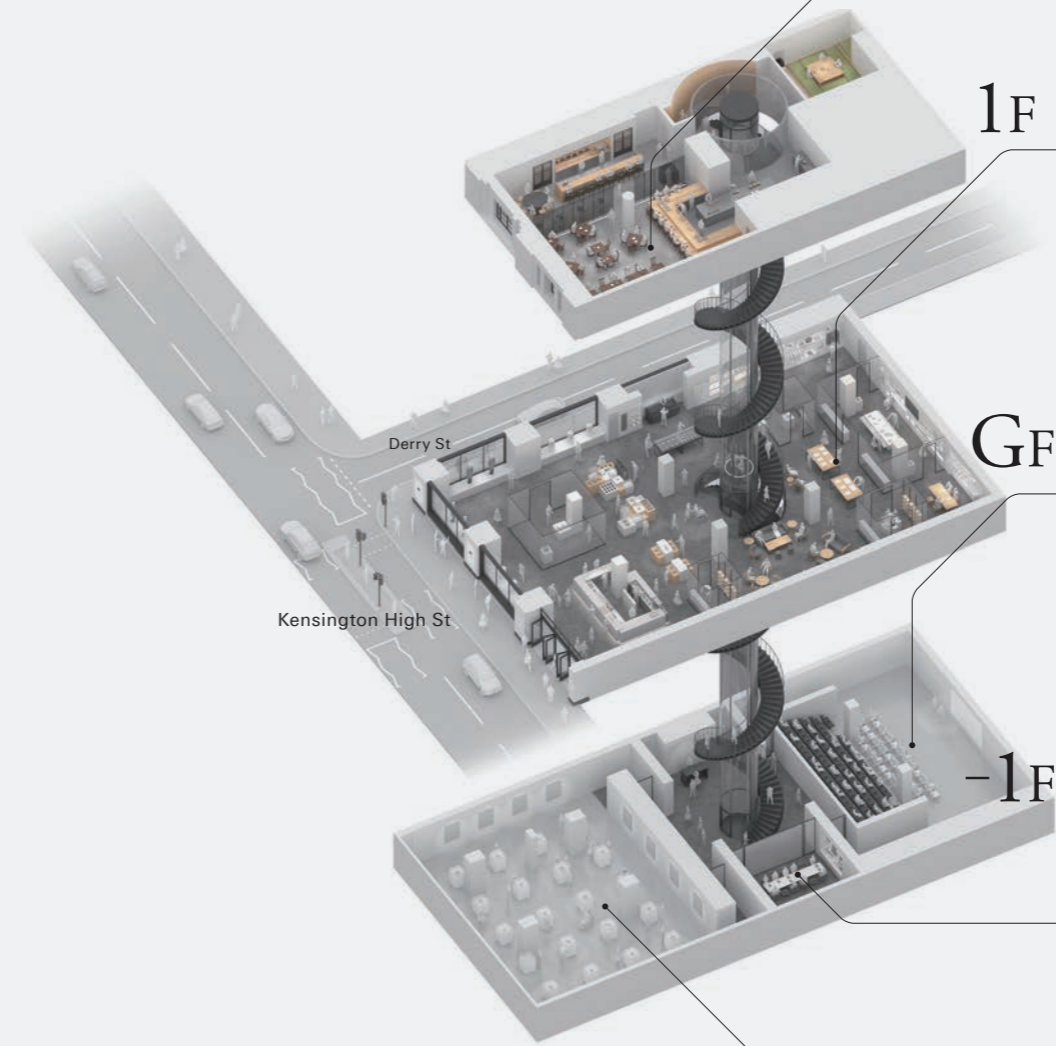
空間の設え、展示、飲食、物販、書籍、イベント、
そしてwebと広報にいたるまで——
その多岐にわたる活動を、常態的に受け入れる現地側の体勢と、
海外3拠点を情報発信拠点として活用する
日本側の能動性がかみ合うことでプロジェクトが形成されています。
創設時に定めた基本方針のもと、5つの機能を軸とした
効果的な活動を行うために連携しています。



「日本をいかに知らなかったか」の
深い気づきと静かな感動を。

短絡的な理解や初見の驚きを重視しない。
日本文化の核心に触れる驚きは、
今日の日本人も世界の人々も同様である。
やや時間がかかっても、より深い日本の精神へと
来場者を導いていくことを重視したい。

千数百年の歴史の背景から、未来を見通し、
未来資源として日本の伝統文化を把握する。
同時に、ハイカルチャーにも、サブカルチャーにも、
先端テクノロジーにも正面から向き合い、
文化、自然、建築、食、デザインにわたる
日本ならではの独自性をかけあわせることで、
「世界で機能する日本」を表現する。



例: JAPAN HOUSE LONDON
フロア構成

食べる

レストラン

食文化の深奥を堪能できる技、空間、
作法による飲食サービスを提供する。

購入する

ショップ

日本文化を「もの」として購入できる
質の確かな物販店として機能する。

体験する

多目的ホール

フレキシブルな空間として、講演や
セミナー、上映会、ワークショップ等
多彩なイベントを行う。

学ぶ

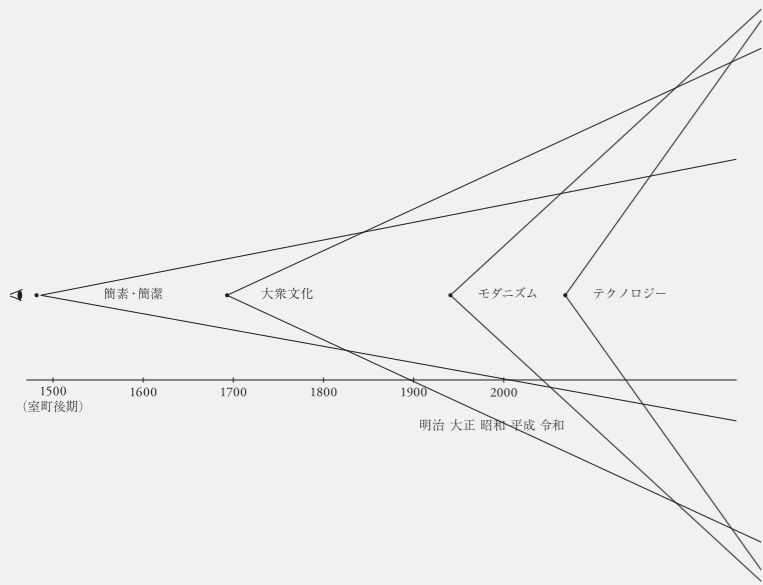
ライブラリー

日本の文化・芸術から政策まで幅
広い分野の書籍や資料を厳選し、
豊富に取り揃える。

観る

展示ギャラリー

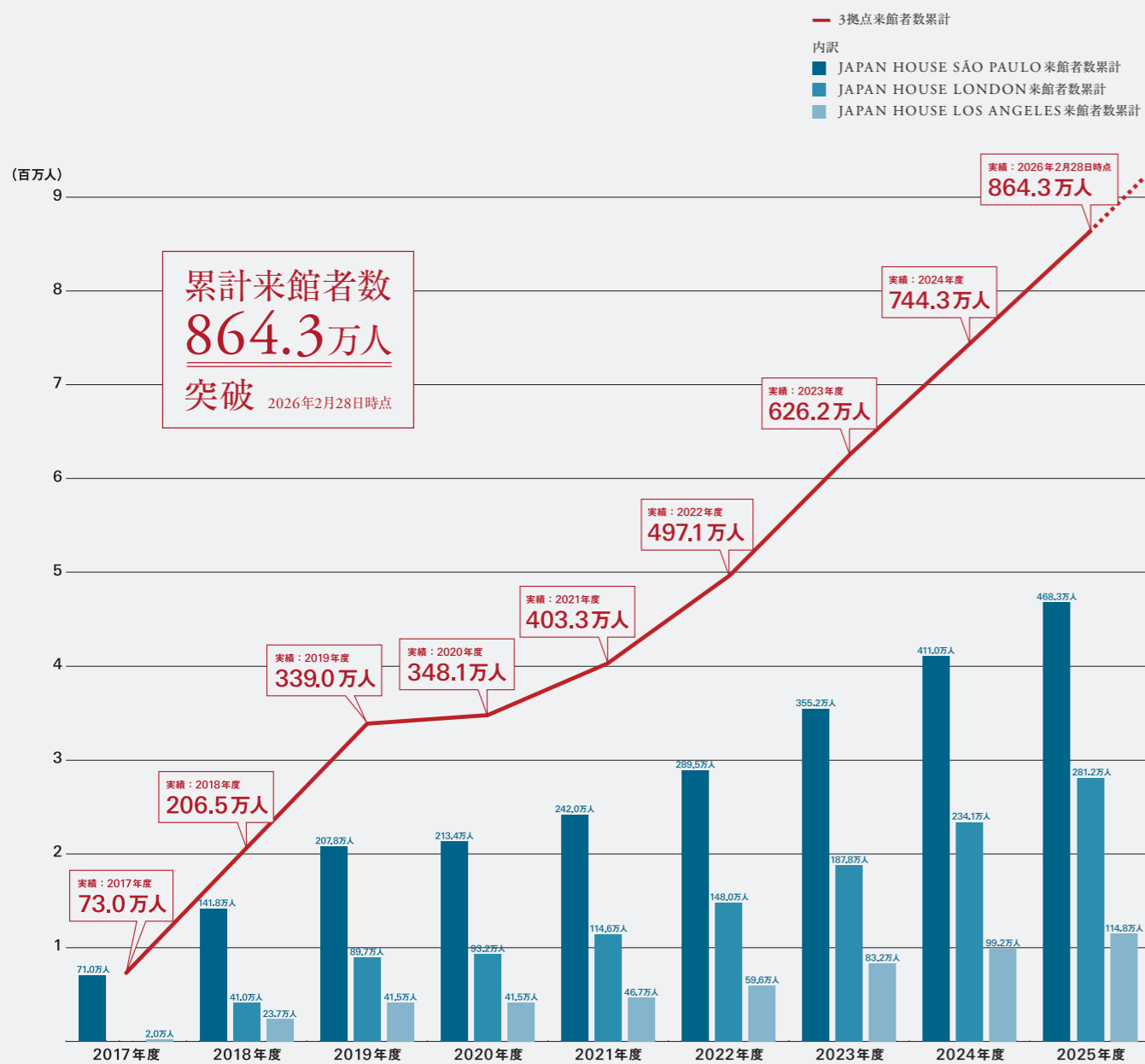
柔軟に活用できるギャラリーを備え、
日本を伝える展覧会の理想の巡回先に。



JAPAN HOUSE

来館者数

2017年から2018年にかけて設置されたジャパン・ハウスの3拠点は、開館時からの累計来館者数が864.3万人を突破し（2026年2月28日時点）、前年度に引き続き、堅調に推移しています。各拠点においては、展示企画やイベントにより日本の多様な魅力を伝え、来館者層の拡大につなげるとともに、文化発信拠点としての役割を着実に強めています。こうした強い訴求力を活かし、企画と連動した講演やセミナーを通じて、日本の政策・取組についても積極的に発信しています。今後も各拠点の特色を活かした企画の充実を図り、さらなる来館者数の増加を目指していきます。



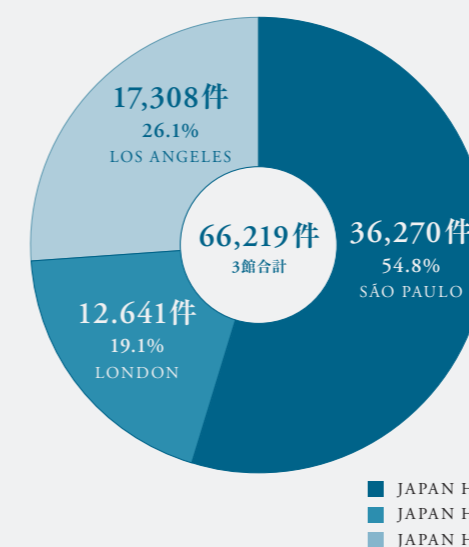
JAPAN HOUSE

メディア掲載実績

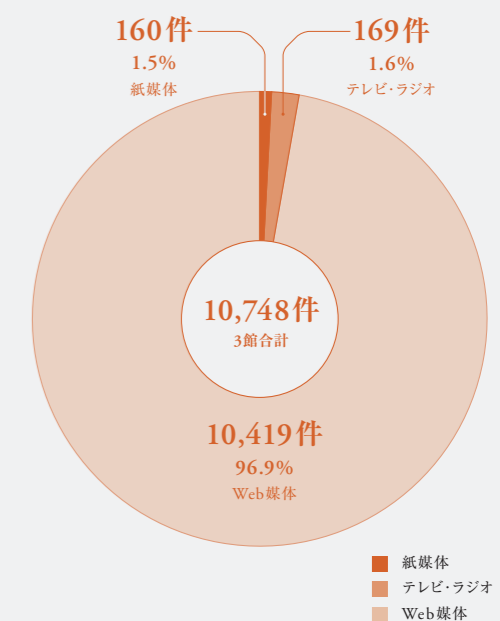
開館当初から2026年1月末までの3拠点におけるメディア掲載総数は約66,000件にのぼり、2025年度（2026年1月末日時点）も、10,748件と高い水準を維持しました。全拠点を通じてWeb媒体が大きな割合を占め、デジタル領域での発信力の高まりがうかがえます。一方で、紙媒体やテレビ・ラジオといった従来型メディアにおいても継続的に露出を重ねており、幅広い媒体を通じた認知の広がりを示しています。引き続き、多様な媒体を通じた効果的な情報発信の強化を図っていきます。

	サンパウロ	ロンドン	ロサンゼルス
メディア掲載総数 開館当初—2026年1月末日まで	36,270 件	12,641 件	17,308 件
メディア掲載総数 2025年4月—2026年1月末日まで	4,530 件	1,949 件	4,269 件
内訳			
紙媒体	131 件	23 件	6 件
テレビ・ラジオ	101 件	39 件	29 件
Web媒体	4,298 件	1,887 件	4,234 件

メディア掲載総数 (拠点別)
開館当初—2026年1月末日まで



メディア掲載総数 (媒体別)
2025年4月—2026年1月末日まで



JAPAN HOUSE 巡回企画展



展覧会とともに、コト、モノ、ヒトが世界を巡回。
展覧会は、あらゆる領域から応募を募り、美術館のディレクターやキュレーターの目により選抜される。各都市で独自に企画・制作された展覧会も互いに利用し合う。それにより日本と3拠点に脈動と連携が生み出される。

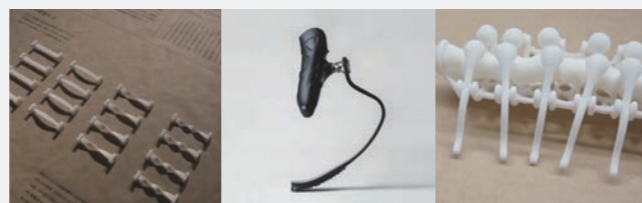
ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力を世界に広めるため、3つの拠点を巡回する企画展を実施しています。
この展示は、日本国内で公募し、審査を経て選定された企画をもとに構成されます。「日本とは何か」という問いに対する多様な答えを提示し、海外の方々に日本の魅力を感じていただくことを目的としています。

第1期
2017年
採択

藤本壮介展 未来の未来
Sou Fujimoto: FUTURES OF THE FUTURE
企画者：TOTOギャラリー・間



Prototyping in Tokyo
企画者：東京大学生産技術研究所 山中研究室



TAKEO PAPER SHOW SUBTLE
— かすかな、ほんのわずかの
企画者：株式会社 竹尾



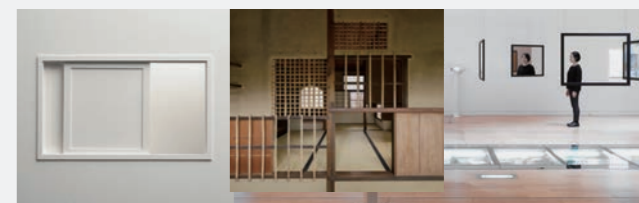
第2期
2018年
採択

浦沢直樹—漫画という芸術—
This is MANGA—the Art of NAOKI URASAWA—
企画者：読売新聞社
©Naoki URASAWA / N WOOD STUDIO



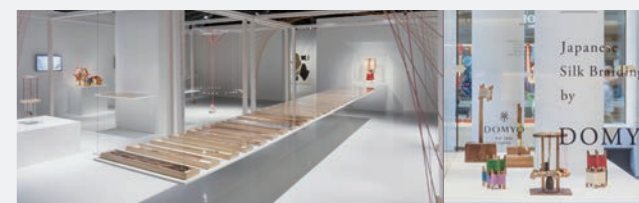
第3期
2019年
採択

窓学 — 窓は文明であり、文化である —
Windowology: New Architectural Views from Japan
企画者：公益財団法人 窓研究所

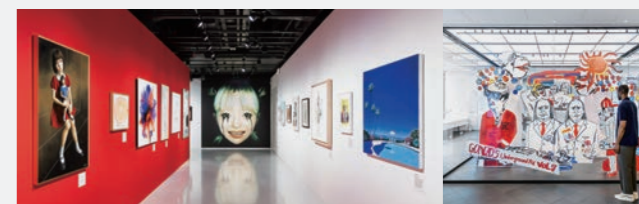


第4期
2020年
採択

KUMIHIMO:
The Art of Japanese Silk Braiding by DOMYO
企画者：株式会社道明



WAVE:
New Currents in Japanese Graphic Arts
企画者：ヒロ杉山、高橋キンタロー

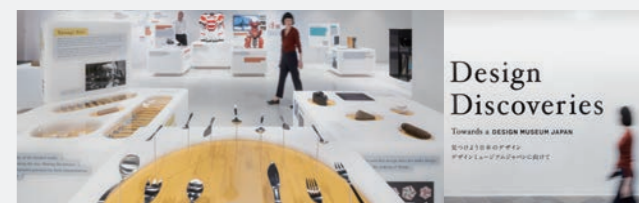


シンビオシス：生きられた島
Symbiosis: Living Island
企画者：Hasegawa Lab+SANAA



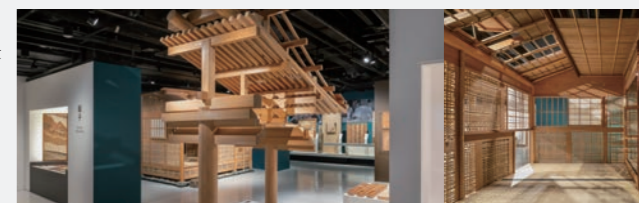
第5期
2021年
採択

DESIGN MUSEUM JAPAN:
企画者：NHKプロモーション、NHKエデュケーショナル



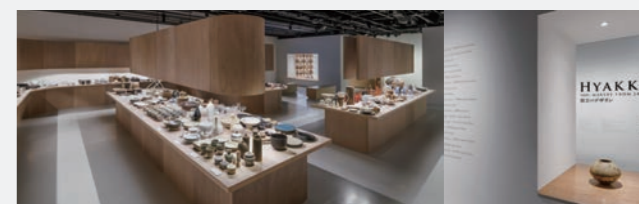
第6期
2022年
採択

本組 分解してみました
KIGUMI: Revealing the Carpentry Behind the Wood Joint
企画者：竹中大工道具館



第7期
2024年
採択

百工のデザイン
Hyakkō: 100+ Makers from Japan
企画者：株式会社良品計画



本質のかたち
Pictograms: Iconic Japanese Designs
企画者：Nippon Design Center USA, Inc



JAPAN HOUSE 現地企画展

ジャパン・ハウスの大きな魅力の1つは
各拠点でテーマを変えて実施している現地企画展です。
日本の多様な魅力を世界に広めるため、
各拠点の特色をいかして現地事務局が企画しています。
展示品の歴史的・文化的背景や
経済・産業的な側面なども盛り込むなど、
工夫を凝らした丁寧な説明を行っています。

JAPAN HOUSE SÃO PAULO

インターナル・ライン
2019年11月13日—2020年2月2日
後援：ブラジル銀行文化センター (Centro Cultural Banco do Brasil)

ミニチュアの視点で見る日本—田中達也
2023年5月16日—10月15日
コンテンツホルダー：株式会社MINIATURE LIFE・田中達也



JAPAN HOUSE LONDON

Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River
2023年11月16日—2024年4月21日
共催：北海道平取町



Looks Delicious! Exploring Japan's food replica culture
2024年10月2日—2025年2月16日
協力：いわさきグループ



JAPAN HOUSE LOS ANGELES

The Art of the Ramen Bowl
2022年3月18日—7月5日
企画・監修：佐藤卓 | TSDO Inc.、橋本麻里 協力：セラミックパレー協議会
後援：岐阜県、多治見市、瑞浪市、土岐市、可児市



Yes, KAWAII is Art—EXPRESS YOURSELF—
2024年5月2日—11月3日
協力：Sebastian Masuda Studio, Six Percent Inc.、ASOBISYSTEM Co., Ltd.





JAPAN HOUSE SÃO PAULO



サンパウロ

サンパウロの目抜き通りに位置し、建築、技術、食、ファッション、芸術、観光など様々な日本の魅力をテーマに展示企画を展開しています。また、展示内容に併せた教育プログラムの充実や日本の文学や漫画などの日本発コンテンツを題材にしたブック・クラブや漫画サイクルという独自の試みを定期的の実施しています。多言語発信やブラジル国内外での横展開（サンパウロ市以外での展示）など、中南米全体への発信強化を図っています。

今年度は「2025年日本国際博覧会」展、「解剖学：日本における住まいのかたち～プレハブ～」展、「Heiwa：平和への祈り」展、「めぐりー日本のくらしと水」展など、多様な分野・角度から日本を紹介する現地企画展が開催されました。巡回企画展「木組み：木の命を汲む人―棟梁の技と心」展は内容を変えた2部構成での開催となり、今年度はその第1部が展示されました。

現地企画展

2025年日本国際博覧会

2025年6月3日—2025年9月28日

後援：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

2025年大阪・関西万博での革新的な技術やアイデアなどの日本の取り組みに着目した企画展。日本館、大屋根リング、シグネチャーパビリオンの1つである「EARTH MART」などを紹介することで、万博のテーマである人類の未来に沿い、食の分野でのアイデアや革新的な技術に触れる機会を提供した。



関連イベント

セミナー

建築家・藤本壮介による
オンラインセミナー

2025年8月21日

現地の教育機関と協力し、建築家・藤本壮介氏によるオンライン講義を開催。藤本氏は2025年大阪・関西万博での設計プロセスや課題を紹介し、参加学生との質疑応答も行われたほか、万博構想に込めた理念についても語った。本講演は参加者が現代日本建築に触れる機会となった。



現地企画展

解剖学：日本における
住まいのかたち
—プレハブ—

2025年7月1日—10月19日

監修：白井良邦 特別協力：磯 達雄
協力：株式会社Vuid、大和ハウス工業株式会社、株式会社前川建築設計事務所、文化庁国立近代建築資料館、積水ハウス株式会社、積水化学工業株式会社、株式会社黒川紀章建築都市設計事務所、株式会社GKデザイン機構、ミサワホーム株式会社、山本理顕設計工場、SUS株式会社、株式会社吉村靖孝建築設計事務所

第二次世界大戦終結後の復興期から現代に至るまで日本人の習慣や生活文化とともに変遷を遂げてきたプレハブ建築について、その経緯、機能性、快適性、デザイン性を俯瞰し、持続可能な住環境を紹介した企画展。環境に適応した今後の住まいのあり方について考える機会を提供した。



現地企画展

めぐり：日本のくらしと水

2025年10月21日—2026年4月5日

アドバイザー：渡邊紹裕 | ICID 日本国内委員会委員長
協力：農林水産省、国土交通省、環境省、国際交流基金、東京都水道局、横浜市水道局、京都上下水道局、東京都水道歴史館、東京大学、一般財団法人日本温泉協会、神社本庁、見付天神矢奈比賣神社、高尾山薬王院、宇太水分神社

日常生活だけでなく、経済や伝統、科学技術、人々の精神性の発展にも大きな影響を与えている「水」を様々な視点から紹介した企画展。水が文化や科学に与えた影響や温泉文化・水道の歴史を示し、日伯双方がその価値を再認識し未来を考える機会とした。



関連イベント

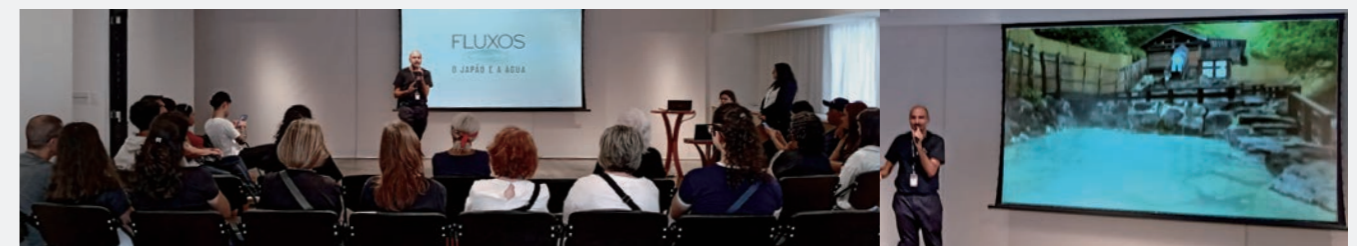
セミナー

「めぐり：日本のくらしと水」展の魅力と、日本の温泉地をめぐる旅

2026年1月24日

後援：日本政府観光局 (JNTO)

ジャパン・ハウス サンパウロと日本政府観光局 (JNTO) が、水をテーマに日本の自然や温泉文化を紹介するイベントを開催。前半はジャパン・ハウス サンパウロの教育チームが日本の水の特徴や各地の温泉を解説し、後半はJNTOが代表的な温泉地と周辺観光の魅力を紹介し、来館者に多角的な視点を提供した。



現地企画展

Heiwa：平和への祈り

2025年8月6日—8月31日

協力：平和首長会議、広島平和記念資料館、広島市、長崎市、日本原水爆被害者団体協議会
写真提供：毎日新聞社

広島と長崎への原爆投下から80年目を迎え、命と平和の尊さ、それを次世代につなげる重要性を伝える企画展。広島・長崎の被爆の歴史を伝えるだけでなく、復興と創造を遂げた活力あふれる都市として現在の両都市の魅力も併せて紹介した。



関連イベント

ワークショップ

千羽鶴アクティビティ

2025年8月7日、12日、13日、14日、19日、20日、21日

来場者は折り紙で鶴を折り、平和・希望・長寿の象徴を学んだ。作成された6千羽の折り鶴は、広島平和記念公園とブラジル長崎県人会へ贈呈。原爆投下80年目に、日伯で平和への願いを共有した。



巡回企画展

第7期

木組み 木の命を汲む人—棟梁の技と心

企画者：

竹中大工道具館

日本の伝統建築の根幹を成す堂宮大工や数寄屋大工職人の技と精神に着目した巡回企画展。自然への畏敬の念と共に、長年にわたって木と真摯に向き合い、樹木の特性を生かし、自然と共存するための卓越した技を紹介。「日本の森」体験コーナーを設け、大工道具、構造が見える形で数寄屋造の茶室を展示した。

巡回スケジュール

巡回地

2024年11月20日—2025年1月22日	ロサンゼルス
2025年3月12日—7月6日	ロンドン
2025年11月11日—2026年4月5日	サンパウロ



関連イベント

ワークショップ

「大工道具—鉋台の製作」
久保正幸による実演

2025年11月9日

協力：竹中大工道具館

大工の久保正幸氏が日本の木工において不可欠な道具である鉋の重要性を紹介し、その台座の製作について実演しながら解説をした。現地の建築・木工・大工分野の専門家と学生を対象とし、鉋台製作の工程、使用する木材の種類、扱い方を段階的に説明した。



実演

エクスペリエンシアJHSP：
ブラジルと日本をつなぐ美
食の繋がり

2025年9月23日

協力：D.O.M.レストラン、藍染レストラン
協賛：Suntory Global Spirits Inc.、エミレーツ航空、
Cermaq社、三菱商事、Kalu Travel株式会社、フレスカット社

日伯外交関係樹立130周年を記念し、和食に関連したイベントを開催。日伯の著名なシェフ4名が集まり、両国の食文化の融合を披露。参加者から高い評価を得て、日伯の交流促進に寄与する象徴的な催しとなった。



講演

坂 茂の建築における
作品づくりと社会貢献の両立

2025年5月2日

日伯外交関係樹立130周年を記念し、建築家の坂 茂氏が、気候変動時代における建築の社会的役割をテーマに講演。素材の活用や効率的な建築ソリューション、災害救援プロジェクトを紹介。世界が様々な環境問題に直面している中、建築が有する社会的貢献の重要性に焦点を当てた。



ワークショップ

My football kit Workshop

2025年4月23日

協賛：株式会社モルテン
協力：マウア工科大学 (IMT)

昨年度実施した「Japanese principles: design and resources」展の一環として、モルテン社のMy Football Kitを題材に小学生80名を対象に、海洋プラスチック再利用やSDGs、日本文化を学ぶ3段階のワークショップを実施。環境保護、デザインとスポーツの価値を体験する機会を提供した。



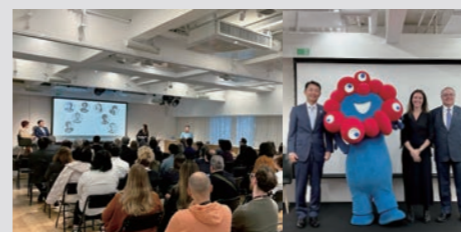
セミナー

大阪万博の見どころを知ろう！

2025年7月11日

共催：在ブラジル日本国大使館
協力：Apex-Brasil (ブラジル輸出投資促進庁)

パネリスト
林 禎二 | 駐ブラジル日本国特命全権大使
Natasha Geenen | ジャパン・ハウス サンパウロ企画担当局長
Ana Claudia Barbosa | ブラジル輸出投資促進庁ビジネス部門
ビジネスアナリスト



2025年大阪・関西万博を動画で紹介。林 禎二駐ブラジル日本国大使 (当時) が、万博の歴史や見所を紹介した。ミャクミャクを特別ゲストとして迎え、サンパウロの姉妹都市である大阪をはじめ関西の魅力を発信した。

セミナー

滋賀県セミナー：
「日本最大の湖を守る滋賀の
知恵と、地元の酒の魅力」

2025年11月12日

共催：在ブラジル日本国大使館

パネリスト
三日月大造 | 滋賀県知事



滋賀県が推進する「環境と経済の調和」、「ブラジルのリオグランデ・ド・スール州との姉妹都市交流」の取り組みを紹介した。COP30の開催期間中に、滋賀県の琵琶湖を中心とした環境保全の取り組みを発信することで、ブラジルにおける環境意識の向上を図った。

講演・セミナー・ワークショップ

長寿プロジェクト

2025年11月27日—30日

パネリスト
レオネル・タカダ博士 | サンパウロ大学医学部神経内科博士
マイラ・オカダ博士 | ホスピタル・ダス・クリニカス認知行動神経学グループ研究員
稲福ひな子 | 沖縄観光コンベンションビューロー国際プロモーション部
アメリカ市場担当部長
生田祐介 | エンカウンター・ジャパン・トラベル 取締役
マルコ・アウレリオ・ビリビオ・カルヴァリオ | ブラジル生悪心理学研究所所長
エリアナ・カルロス・トレド | ブラジリヤルト商工株式会社栄養士
デニス・マキ | 日本の栄養学専門家



日伯外交関係130周年樹立を記念し、「長寿」をテーマにした特別プログラムを開催。専門家による講演や、体験プログラムを通して、日本の伝統を取り入れながら、和食紹介、観光セミナー、森林浴、ラジオ体操、ユラリズムなど健康長寿とウェルビーイングを促進する取り組みが行われた。



JAPAN HOUSE LONDON



ロンドン

2018年6月の開館以来、ケンジントンのメイン通りに構えるジャパン・ハウス ロンドンは、日本の伝統的な職人技から最先端の技術まで、幅広いテーマを扱った企画展示を行ってきました。展示品の紹介にとどまらず、その背景にある歴史や文化、社会的文脈にまで踏み込み、来館者のより深い理解へとつながるよう工夫を凝らしていることが、この拠点の大きな特徴です。

2025年度は、過去最多となる延べ50万人超の来館者を迎えました。「木の命を汲む人」展では建築家・木工職人と日本の森林との関係性を探求し、「ピクトグラム」展ではその普及の歴史を辿りながら関西万博とも連動。「百工のデザイン」展では全国から集まった職人や工芸家による約2,000点の作品を展示しました。大相撲ロンドン公演に合わせた特別企画や輪島漆器の展示も加わり、日本の地域パートナーおよび日本政府観光局（JNTO）との連携のもと、日本各地の魅力が現地に届ける「Spotlight on Local Japan」も継続しました。

巡回企画展 第6期

木組み 木の命を汲む人 The Craft of Carpentry: Drawing Life from Japan's Forests

企画者：
竹中大工道具館

日本の木工文化は、受け継がれてきた伝統と、自然に対する畏敬の念、自然環境に培われた職人の技と心によって育まれてきた。本展では、社寺建築を支える「堂宮大工」と、伝統的建物を手がける「数寄屋大工」、世界に誇る木造建築技術「木組」の三つの側面から日本の木工文化とは何かを探った。

巡回スケジュール	巡回地
2024年11月20日—2025年1月22日	ロサンゼルス
2025年3月12日—7月6日	ロンドン
2025年11月11日—2026年4月5日	サンパウロ



関連イベント

ワークショップ

組子コースター作り体験

2025年4月1日、8日、14日、17日、22日、29日
5月6日、13日、20日、27日
6月3日、10日、17日、25日
7月1日

協力：竹中大工道具館

薄く繊細な木材を正確に切り取り、釘を使わずに組み合わせ、複雑な幾何学模様を作る木工技法である組子。大工の久保正幸氏からトレーニングを受けたジャパン・ハウス ロンドンのスタッフが講師となり、4か月にわたって組子のコースター作りのワークショップを行った。



巡回企画展

第7期

本質のかたち

Pictograms: Iconic Japanese Designs

企画者:

Nippon Design
Center USA, Inc.

日本のデザインは、美しさと造形力、普遍性において、さまざまな分野で世界中の人々を魅了している。本展では、日本のデザインの特徴を最も端的に表したピクトグラムを取り上げ、ピクトグラムの文化的背景を紐解くとともに、日本文化や観光体験の豊かさをあらゆる角度から観察・発見し、その背景に潜む美意識を提示し、紹介した。

巡回スケジュール	巡回地
2025年7月29日—11月9日	ロンドン
2026年2月12日—5月3日	ロサンゼルス
2026年11月24日—2027年4月25日	サンパウロ



関連イベント

ワークショップ

マイ・ロンドン・ピクトグラム

2025年4月29日—6月2日

協力：ザ・ジャパン・ソサエティ(日本協会)

7歳から16歳までを対象としたデザインコンペティションを開催。応募者がロンドンをイメージして描いたデザインの中から複数の優秀作品を選び、日本デザインセンターが手を加えてピクトグラム化したものを、本展にて展示した。



ワークショップ

日本語教育講座

2025年10月27日

主催：国際交流基金ロンドン日本文化センター

国際交流基金ロンドン日本文化センター主催のもと、「Pictograms: Iconic Japanese Designs」展に関連した日本語講座を開催。特に高校生や大学生を中心に、これまで日本語を学んだことがない人、または初級レベルの人を対象とし、参加者は現代日本のデザインの美しさを体験しながら、日本語の学習を楽しんだ。



巡回企画展

第7期

百工のデザイン

Hyakkō 100+ Makers from Japan

企画者：
株式会社良品計画

開かれた包括的な視点から工芸を見つめ、単なる容器や道具としてではなく、日本の日常生活に深く統合された独自の文化として提示する機会を提供。日本全国から100名を超える作家が参加し、陶やガラス、木材、漆、竹、革、紙、金属等、様々な素材を用いて制作した約1,700点の作品を展示した。

巡回スケジュール	巡回地
2025年12月3日—2026年5月10日	ロンドン
2026年11月6日—2027年1月24日	ロサンゼルス
2027年4月26日—9月19日	サンパウロ



関連イベント

ワークショップ
器と花

2026年2月12日、3月12日、4月9日
各日2回(全6回)
協力：一般社団法人いけばなインターナショナル

本展で実際に展示された作品や参加作家の作品を使用したワークショップを開催。いけばなインターナショナル・ロンドン支部の講師を迎え、日本の工芸における用の美について学ぶとともに、ワークショップを行った。



トーク・実演
土と語らう
リサ・ハモンドと山田洋次
対談と作陶の実演

2026年1月24日、25日

対談ではイギリスと日本の陶芸の伝統が互いの制作に与えてきた影響について考察した。実演では、ろくろ成形や手びねり、スリップ装飾などを披露。素材・工程・かたちに対する両者の異なるアプローチを間近で体感できる機会となった。



Spotlight on Local Japan

日本政府観光局 (JNTO) の広報協力のもと、工芸やデザイン、ものづくり、食文化、イノベーション、テクノロジー等を通じてより深い日本各地の魅力を伝えるプロジェクト。



トーク・実演・ワークショップ

宮城の仙台箆筒 (宮城県)

2025年7月17日—19日

共催：宮城県
協力：日本政府観光局 (JNTO)

宮城県の伝統工芸品である仙台箆筒をテーマに、3日間にわたりイベントを開催。仙台箆筒の歴史や特徴に関する解説のほか、木工職人の関谷修一氏、漆職人の菅野雄樹氏、金具職人の長谷部良勝氏それぞれによる実演、ミニ箆筒の制作や金工の「打ち出し」を体験するワークショップ等、多彩なプログラムを通じて仙台箆筒の職人技を体感する機会を提供した。



トーク

薩摩藩英国留学生派遣 160周年記念講演 (鹿児島県)

2025年7月23日

共催：鹿児島県
協力：日本政府観光局 (JNTO)

2025年は、19世紀に薩摩藩から英国へ渡り、英国の文化や技術を学んだ若者たち「薩摩藩英国留学生」の渡欧から160周年にあたる。これを記念し、鹿児島県立大口高等学校校長の吉満庄司氏を招いてトークイベントを開催。日英間の架け橋となった「薩摩藩英国留学生」の歴史的背景や、両国の文化・技術交流における貢献について紹介した。また、当日は鹿児島県の高校生も参加し、鹿児島の魅力を紹介するプレゼンテーションも行った。



トーク・実演

灘五郷地域の酒造文化 (兵庫県)

2025年11月13日—11月15日

共催：灘五郷酒造組合
協力：日本政府観光局 (JNTO)

菰樽の巻き方や鏡開き、暖気樽作りの実演のほか、灘五郷地域の酒造りの発展を支えてきた歴史的、地理的、技術的、物的的要因や、丹波杜氏が果たしてきた役割に関するトークイベント、さらに灘の酒造りの歌の演奏を通して、灘五郷の酒造文化を探求した。



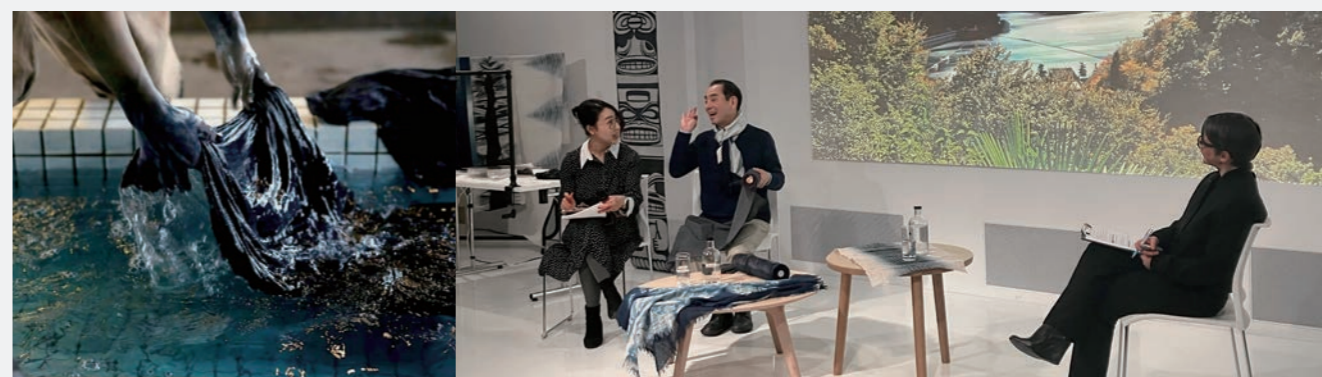
トーク・実演

青梅市の藍染め (東京都)

2026年1月17日

共催：公益財団法人東京観光財団
協力：日本政府観光局 (JNTO)

東京都青梅市の藍染工房・壺草苑の工房長である村田德行氏を登壇者として迎えてトークイベントを開催するとともに、壺草苑とリアルタイムで繋ぎ、生中継にて工房探訪及び藍染の実演を行った。藍染の実物は、現地でも展示された。



実演・ワークショップ

輪島塗 (石川県)

2026年3月3日、5日、6日

共催：一般社団法人WAJOY日本工芸の国際普及協会
協力：日本政府観光局 (JNTO)

能登半島地震で甚大な被害を受けた輪島塗業界にスポットライトを当て、輪島塗の復興を印象づける一連のイベントを開催。漆芸家・箱瀬純一氏が漆塗りや蒔絵等の輪島塗の技法を紹介する実演を行うとともに、同氏の指導のもと、参加者が持参した割れた陶磁器を金継ぎの技法を用いて修復するワークショップを行った。



トーク

女子ラグビー
ワールドカップ2025

2025年8月21日

共催：日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会の協力により、プロラグビー選手の玉井希絵氏とラグビー解説者の田村一博氏を迎え、日本の女子ラグビーの黎明期から2002年の協会統合までの歴史や2016年リオ五輪出場以降の発展を紹介するトークイベントを開催した。日本と英国の女子ラグビーの違いや今後の展望についても意見が交わされた。



ワークショップ

大阪の押し寿司づくり

2025年9月29日

協力：レストラン「AKIRA」

「AKIRA」のシェフの指導のもと、大阪・関西万博により世界的に注目を集めた大阪の箱寿司作りを学ぶワークショップを開催した。エビやウナギ、サーモン、たまご、焼き鯖、アスパラガス、しいたけ等の食材を用いて6個の箱寿司を作り、日本酒や緑茶と共に味わった。また、箱寿司を表現するビクトグラムを日本デザインセンターがデザインした。



トーク・実演

大相撲ロンドン公演
関連イベントシリーズ

2025年10月14日、16日、18日

協力：日本相撲協会、日本政府観光局 (JNTO)

ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールにて行われた大相撲公演を機に、日本相撲協会及び日本政府観光局の協力を得て関連イベントを3日間にわたり開催した。NHK大相撲中継英語実況フリーアナウンサーの森田博士氏がモデレーターを務め、横綱・大の里を含む力士のほか、床山と、行司、呼出が各イベントに登壇し、髪結い等の実演やトークを行った。



イベント

落語パフォーマンス

2025年4月30日

協力：英国ジャパン・ソサエティ、英語落語協会

ジャパン・ソサエティとのコラボレーションにより、英語落語のパフォーマンスイベントを開催。落語に関する入門的な解説の後、英語落語協会の鹿鳴家英楽、鹿鳴家幸楽、鹿鳴家騎士の3氏が古典落語の名作を披露した。



トーク

被爆80年企画
被爆者が語るヒロシマの記憶

2025年6月16日

共催：在英日本国大使館

協力：公益財団法人広島平和文化センター

パネリスト

八幡照子、飯田國彦 | 非核特使

井上つぐみ、増本夏海、八幡 恵 | ユース非核特使



広島・長崎への原爆投下から80年の節目を記念し、「核兵器のない世界」の実現を訴える非核特使として活動する広島の被爆者2名（八幡照子氏、飯田國彦氏）が、自らの体験を語るトークイベントを開催。被爆の記憶と教訓を次世代へ継承する活動に取り組むユース非核特使3名（井上つぐみ氏、増本夏海氏、八幡恵氏）も登壇した。

パネルディスカッション

グローバル・サウスにおける
覇権争いと日本が果たすべき
役割

2026年1月27日

共催：王立国際問題研究所 (チャタムハウス)

パネリスト

神保 謙 | 慶應義塾大学・総合政策学部教授

レベッカ・ナディン | ODIグローバル グローバルリスク&レジリエンス
プログラムディレクター

チエティジ・バジパイ | チャタムハウス アジア太平洋プログラム上席研究員



グローバル・サウスを巡る影響力争いに関するパネルディスカッションを開催。発展途上国や新興国への中国の影響力拡大に対する懸念が高まる中、グローバル・サウス諸国が中国に対してどう反応してきたか、またグローバル・サウスの存在感が高まる中で日本はどのような貢献ができるか等について、パネルディスカッションにて議論した。



ロサンゼルス

2018年8月に全館開館したジャパン・ハウス ロサンゼルスは、エンターテインメントの中心地・ハリウッドの持つ発信力と地域性を活かしながら、食、デザイン、伝統工芸から現代カルチャーまで、日本の多彩な魅力を届けてきました。伝統、美意識、現代的な創造性に触れる機会を重ねることで、来館者が日本を身近に感じ、自らのライフスタイルに取り入れたいと思える体験価値を生み出すことを、発信の礎に据えています。

2025年度は、先端技術と食文化を軸に多面的な発信を行いました。ギャラリーでは、NHKの3Dスキャン技術を駆使した「NEO-JAPONISM」展を開催し、伝統とテクノロジーが交差することで生まれる新たな可能性を提示。「Looks Delicious!」展では47都道府県の食文化を紹介するとともに、食品サンプルの制作体験などのワークショップを連動させました。見る、触れる、味わう。こうした五感に働きかける体験により、来館者の日本文化への理解を深めました。

現地企画展

NEO-JAPONISM SAMURAI AND BEYOND:

Exploring Tradition
Through Technology

2025年2月14日—9月1日

企画：NHK、NHK Enterprises, Inc.

NHK放送開始100周年を記念し、特別展を開催。大河ドラマの革新的な映像技術や、博物館との連携によるインタラクティブな展示を通じ、「NEO-JAPONISM」をテーマに日本文化の伝統と先端技術の融合を世界へ発信した。



関連イベント

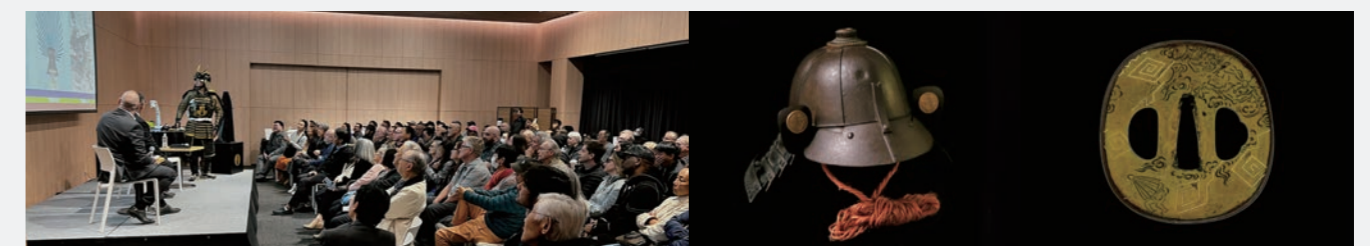
セミナー

Steel and Honor |
The Legacy of
the Samurai Sword

2025年4月26日

協力：Jidai Arts

Michael Yamasaki氏とDarin S. Furukawa氏を招いた侍芸術のトークイベントを開催。両氏が私蔵の刀剣や武具の変遷、美学を解説した。後半はサロンにて刀剣や甲冑等の貴重な個人コレクションの鑑賞会も行われ、参加者は侍の遺産と芸術性を間近で堪能した。



現地企画展

Looks Delicious!
Exploring Japan's
food replica culture

2025年9月18日—2026年1月25日

企画：ジャパン・ハウス ロンドン
協力：株式会社いわさき、JR東海

精巧な食品サンプル文化を紹介する展示で、職人技や地域色豊かな郷土料理の模型を一堂に公開。飲食業にとどまらず、教育や医療等での活用例も紹介。弁当作りの体験コーナーもあり、日本のものづくりの精神と遊び心を五感で楽しめる内容。本展は食品サンプルの老舗メーカー株式会社いわさきの協力を得、ジャパン・ハウス ロンドンによる立案企画が大きな反響を呼び、ジャパン・ハウス ロサンゼルスへ巡回した。



関連イベント

セミナー

Inside Japan's Hyper-Realistic Food Replicas

2025年9月18日

本展に関連したトークプログラムを実施した。株式会社いわさき 総務部長の中井 敬氏が登壇し、食品サンプルの成り立ちや制作技法、その文化的意義について講演したほか、展示作品について解説し、学びの機会を提供。質疑応答では活発な意見交換が生まれ、地域の参加者や文化関係者、学生が集う交流の場となった。



ワークショップ

Replica Workshop

2025年10月24日、28日、11月1日、15日

協力：株式会社いわさき

ナポリタン及び抹茶パフェの食品サンプル作りを体験するワークショップを開催。佐藤香央里氏がリモートで制作を指導するとともに、食品サンプルの歴史や発展、文化的意義について解説を行った。参加者は制作体験を通じて、職人技やデザイン性、日本の食文化への理解を深めた。



巡回企画展

第7期

本質のかたち

Pictograms: Iconic Japanese Designs

企画者:

Nippon Design
Center USA, Inc.

ピクトグラムを起点に、日本のデザインや文化的背景、
観光の豊かさを多角的に紐解く展示を開催。

身近な記号を通して、日常に潜む日本特有の美意識や魅力を高い解像度で再発見し、
誰もが知るデザインの裏側にある、まだ見ぬ日本の姿を提示した。

巡回スケジュール	巡回地
2025年7月29日—11月9日	ロンドン
2026年2月12日—5月3日	ロサンゼルス
2026年11月24日—2027年4月25日	サンパウロ



関連イベント

ワークショップ

My LA Pictogram project

2025年10月7日、8日、20日、22日、24日
11月13日、14日、17日 (2回)、18日 (3回)
2025年1月21日

企画: Nippon Design Center USA Inc.

ジャパン・ハウス ロサンゼルスとの共同プロジェクト。
1~12年生を対象に、ワークシートを活用してピクトグラムの歴史
を学び、ロサンゼルスを表現したオリジナル作品を制作する機会
を提供。選出された30作品はNippon Design Center USAの
デザイナーの手によってピクトグラム化され、本展で展示された。



ワークショップ

The Art of Resilience |
The Wajima-nuri Journey

2025年9月12日、13日
協力: 和技 WAZA

日本の漆工芸を通じた文化交流と復興支援のイベントを開催。
輪島塗の展示販売に加え、篠原今日子氏をはじめとする輪島塗
職人らが金象嵌や蒔絵を実演。来場者はワークショップで技
法を体験した。能登の復興力を示すとともに、職人との交流を
通じて伝統文化への理解を深める機会となった。



上映会

Netflix's LAST SAMURAI
STANDING | Special Screening,
Q & A and Reception

2025年11月7日
主催: Netflix, Inc.

Netflixシリーズの新作「イクサガミ (英題: LAST SAMURAI
STANDING)」の特別試写会を開催。第1話の先行上映に加
え、主演・プロデューサー・アクションプランナーの岡田准一氏が
オンラインで登壇し、作品についてのQ&Aを実施。終了後には
交流レセプションも行われた。



上映会

J-Screen

2025年11月18日、19日
共催: 日本貿易振興機構 (JETRO)
協力: 在ロサンゼルス日本国総領事館

日本映画プログラム「J-Screen」をJETROと共に開催。映画
「国宝」の上映や、李 相日監督と吉沢 亮氏によるQ&Aを実施。
パネルディスカッションでは制作陣が日本のストーリーテリ
ングの多様性を議論。日米の業界関係者の交流を通じ、日本映
画の国際的意義を強く発信した。



トーク

ennichi'25
JP Music Industry Mixer

2025年12月1日
主催: CEIPA×TOYOTA GROUP "MUSIC WAY PROJECT"
協力: 文化庁
後援: 経済産業省、在ロサンゼルス日本国総領事館、
日本貿易振興機構 (JETRO) ロサンゼルス事務所、国際交
流基金ロサンゼルス日本文化センター

日米の音楽プロデューサーを招いたパネル討論と交流会を開催。
「日本音楽の新たな地平」をテーマに議論を交わし、文化庁の
都倉俊一長官も登壇した。両国の専門家が交流し、グローバ
ルな音楽産業における協業やビジネスの可能性を探る貴重な
機会となった。



セミナー

Expo 2025, Osaka, Kansai, Japan
EARTH FOODS 25 |
Future of Global Food
Sustainability

2025年5月1日

共催：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

パネリスト

小山薫堂 | 放送作家・京都芸術大学副学長
外村 仁 | Food Tech Studio – Bites!創設者



2025年大阪・関西万博のEARTH MARTパビリオンに焦点を当てた対談イベントを開催。EARTH MARTプロデューサーの小山薫堂氏と検討委員会メンバーである外村仁氏が登壇した。様々な日本特有の食材が紹介されると共に、ロサンゼルスで活躍する日本人シェフと協同し、これらの食材を取り入れた弁当の試食会を実施。参加者に日本の食文化への理解を深める機会を提供した。

実演

JRA-Sushi & Sake for
Wildfire Relief

2025年6月9日

主催：米国日系レストラン協会 (Japanese Restaurant Association)
協力：在ロサンゼルス日本国総領事館、日本貿易振興機構 (JETRO) ロサンゼルス事務所



米国日系レストラン協会と食品事業者が連携し、2025年1月にロサンゼルスで発生した山火事復興支援のチャリティイベントを開催。29の企業・団体が参加し、来場者約90名が15のブースで本格的な日本料理や日本酒を堪能。チケット売上全額は復興基金へ寄付され、食を通じた社会貢献の場となった。

上映会

Paper Lanterns
80 Years After Hiroshima
– A Tribute to Peace

2025年6月21日

共催：在ロサンゼルス日本国総領事館

パネリスト

バリー・フレッシュット | 映画「Paper Lanterns」監督
クリアリー・齋藤信子 | 映画「Paper Lanterns」プロデューサー



戦後80年を記念し、広島で被爆した米軍捕虜の物語を描く映画「Paper Lanterns」の上映会を開催。制作者らの登壇や資料展を通じ、被爆者による記憶の献身的な継承を伝えた。歴史の省察と対話の場を提供し、日米の和解と平和への理解を深める機会となった。

トーク

Japan Visit Presentation
by the 2025 KAKEHASHI
—LA Latin American
Young Leaders Delegation 報告会

2025年12月9日

共催：在ロサンゼルス日本国総領事館

パネリスト

ディエゴ・アンドラデス | 南カリフォルニア大学ドーンサイフ
政治未来センター・アシスタント・ディレクター
マシュー・サンチェス | MATTEO PARFUMS創業者・CEO
アレハンドラ・アコスタ | One Degree Hotter College Advising 創業者・CEO



日本政府の交流事業カケハシ・プロジェクトで訪日したラテン系若手リーダーの帰国報告会を開催。日本文化や社会への理解を深めた参加者が経験を共有し、米国ラテン系コミュニティとの絆を強化した。人的交流を通じて、将来の友好と協力関係を築く貴重な機会となった。



JAPAN HOUSE

JAPAN HOUSE SÃO PAULO

Av. Paulista, 52 - Bela Vista,
São Paulo - SP, 01310-900, BRASIL
<https://www.japanhousesp.com.br/ja/>

JAPAN HOUSE LONDON

101-111 Kensington High Street,
Kensington, London W8 5SA, UK
<https://www.japanhouselondon.uk/>

JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Ovation Hollywood 6801 Hollywood Blvd.
Level 2 and 5 Los Angeles, CA 90028, USA
<https://www.japanhousela.com/>

ジャパン・ハウス東京事務局 (外務省戦略的対外発信拠点室)

クリエイティブ・アドバイザー 原研哉

サンパウロ——株式会社 JTB (2024年4月～)

株式会社 電通 (~2024年3月)

ロンドン——Japan H. L. Limited (2019年7月～)

ジョーンズ ラング ラサール株式会社 (~2019年6月)

ロサンゼルス——吉本興業株式会社 (2024年4月～)

株式会社 電通ライブ (~2024年3月)

株式会社 ESP (~2019年6月)



www.japanhouse.jp



SÃO PAULO



LONDON



LOS ANGELES

